

# 蒲生なかの 郷愁館だより

第2号  
2025年秋



—運営スタッフのひとこと—

西原公園は、なかの伝承の丘と続く開放的で美しい芝生公園に生まれ変わりました。週末はたくさんのお子さん連れが訪れています。  
(ヤマキ)

# 郷愁館のできごと・蒲生のできごと



## 新「西原公園」の開園とキャンドル慰靈祭

8月24日、東日本大震災により失われていた「西原公園」が再び開園しました。遊具には旧中野小学校のシンボルバードであるコアジサシが描かれています。子どもたちはさっそく夢中になって遊び、中野小学校の卒業生だという親御さんも多く訪れていました。また開園式では中野小太鼓の演奏も披露されました。

夕方からは隣接する「なかの伝承の丘」で「キャンドル慰靈祭」が開催されました。（主催：なかの伝承の丘保存会）中野小学校の歴史の年数と、この地区で犠牲になられた方々の人数を合わせた計300本のキャンドルに火を灯し、篠笛と歌の演奏を聴きながら、この地区にゆかりのある方々100名以上とともに静かなひと時を過ごしました。

## 「蒲生なかのプレーパーク」を開催しました

子どもたちに蒲生なかの地区で遊んで欲しいという願いを込め、この地区的楽しさを体験できる遊び場「蒲生なかのプレーパーク」を8月と10月に開催しました。（主催：なかの伝承の丘保存会）

8月は開園したばかりの西原公園を中心に、遊具や水遊びのほか、防潮堤にチョークでお絵描きをして楽しみました。10月は高砂神社と七北田川の河口を中心に、焚き火で焼き芋やマシュマロ焼きをしたり、カニや貝を捕まえたり、ヨシと竹で作った弓矢やけん玉で遊びました。



## 郷愁館のこれから予定

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| 11月13日～ | 小さな企画展「それでも下水は止められない」 |
| 11月15日  | 西原公園植樹会               |
| 12月7日   | 花壇に球根を植えよう            |
| 12月中旬～  | 関連展示「のとのこと」           |
| 2月下旬～   | 小さな企画展「この発電所ができるまで」   |
| 3月1日    | 慰靈祭・特別案内日             |
| 3月11日   | 特別案内日                 |

## 来館者のメッセージ

郷愁館の自由帳に書かれた言葉をなるべくそのままご紹介します

・私はまだ生まれていないとき、こんな、つらいか去があったんだと学びました。海やしじんをたいせつになるとゆう事は、とってもだいじだと、伝わりました。もうこんな事はいっさいおきないと、ねがいます。ありがとうございました。またいきたいです

・昔の宮城のことやひがし日本大しんさいのことについてよく知れた。

・お母さんの母校が知れたらし、ひがし日本大しんさいでへい校してしまった中野小学校の事を風化させないようにしようと思いました

郷愁館では、親子で学習もできるよう、子どもが理解しやすい言葉選び、難しい漢字はルビを振って、子どもの目線を考慮した展示をしています。館内にある「みんなの自由帳」には、子どもの字で書かれたメッセージもあります。（ヤマキ）

## 花壇通信

9月11日『花壇とお茶っこ』開催。草取りしても3日後には土の上に顔を出すスギナを愛でながら「スギナだって生きてんだからしょうがない笑」なんて楽しく花壇のお手入れ。お茶っこでは、蒲生・中野の思い出話に花を咲かせました。12月7日（日）10時からチューリップの球根を植えます！気軽にご参加ください！（大沢）



## 館長のひとこと

「蒲生なかの郷愁館」の開館以来、蒲生なかの地区に関わる多くの方々からのご助言とご支援をいただき、これまで数多くの取り組みを行なうことができました。8月に西原公園が再び開園し、子どもたちの笑顔が戻ってきたことは、この地区に関わるすべての方々の喜びです。これからも私たちの故郷を役立てていただき、より多くの子どもたちに楽しんでいただければ幸いです。  
(蒲生なかの郷愁館館長／なかの伝承の丘保存会会長・下山)

<来館者数実績> 2024年度：約2,500人（うち団体見学：51件 620人）

2025年度10月末まで：約820人（うち団体見学：16件 340人）

<メディア掲載（累計）> 新聞24件、TV放映12件

表紙写真：西原公園の開園式にて／門傳一彦

制作：蒲生なかの郷愁館運営チーム／2025年11月発行

蒲生なかの郷愁館（宮城県仙台市宮城野区蒲生4-1-1 杜の都バイオマス発電所内）